

チャレンジ!

海辺の館の新展開



最終回

海は続くよどこまでも…



三葉虫はいかにして
エサを食べたか?

名前のせい、「虫みたーい!」
と言われてしまうことも多い三
葉虫。確かに一見すると、その姿
はまるでダンゴムシのよう。で
も、三葉虫は虫どころか、まだ動
物が陸に上がって生活するより
前の時代に最も栄えた、海の生物



▲生命の海科学館に昨年末オープン
したショップ(主宰:手をつなぐ
親の会)でゲットした、三葉虫の
化石。子どもたちに大人気です。

です。長い柄のある目を持ったも
のやトゲだらけのものなど、いろ
いろな種類があります。世界中で
たくさん化石が発見されてい
るため手に入りやすいことや、形
の美しさから、アンモナイトと並
んで化石が好きな子どもたちに
大人気です。

生命の海科学館には、カナダに
あるカンブリア紀の地層から発
見された三葉虫の化石が展示し
てあります。いずれも体長数セン
チメートルの小さなものですが、
子どもたちは、展示化石の解説に
目をやるより先に「三葉虫だ!」
と声をあげ、化石をまじまじと見
つめています。「どんなふうに見
いたの?」「ダンゴムシみたい



▲三葉虫の脱皮について全身で説明しているところ

丸まるの?」「どうやって、脱皮す
るの?」などの質問が飛んできま
す。そんなときには、私は書物か
ら得た知識を総動員して(なんと
いっても、生きた三葉虫を見たこ
とがないものですから…)、身振
り手振りで答えます。「泥を脚の
あいだにかき捨てるように、はっ
て歩いたから、V字にえぐれた足
跡がずーっとついたんだよ。」「敵
から身を守るために、丸まった姿
のままの化石も見つかっている
よ。」「アタマとカラダの境目のと
ころでカラが裂けて、まずは頭を
よいしょと脱いで…、脱皮した殻
も化石になって見つかっている
よ。」などなど、まさに『見てきた



三葉虫とカプトガニ

ようななんとやら』です。
でも、あれこれ言葉で説明して
も、手足が一對ずつしかない人間
が身振り手振りで大奮闘しても、
「動き」はなかなか伝わりません。
そんなときには私は、「竹島水族
館に行ってみるといいよ」と一言
付け加えています。竹島水族館に
は、カプトガニがいるからです。

三葉虫が、一見ダンゴムシだと
すれば、カプトガニはまるでエイ
リアンです。1979年に劇場公
開されて大ヒットした同名の映
画に出てきた、エイリアンの幼生
にそっくりなのです。あまり似て
いないと思うかもしれませんが、
実は、現代において三葉虫にもつ
とも近い動物は、カプトガニだと
考えられています。ふくらんだ殻
の下には、節をもつ大小6対の脚
と5対のエラがついていて、脚の
付け根にエサを取り込む口があ
ります。脚の付け根には細かいト
ゲがびっしりと生えていて、カプ
トガニはこのトゲを使い、上手に
脚を動かしてエサを口へ運び込
みます。いわば脚の付け根がアゴ
になっているのです。